

グローバル出荷指数（平成22年基準） について（平成28年Ⅱ期（第2四半期））

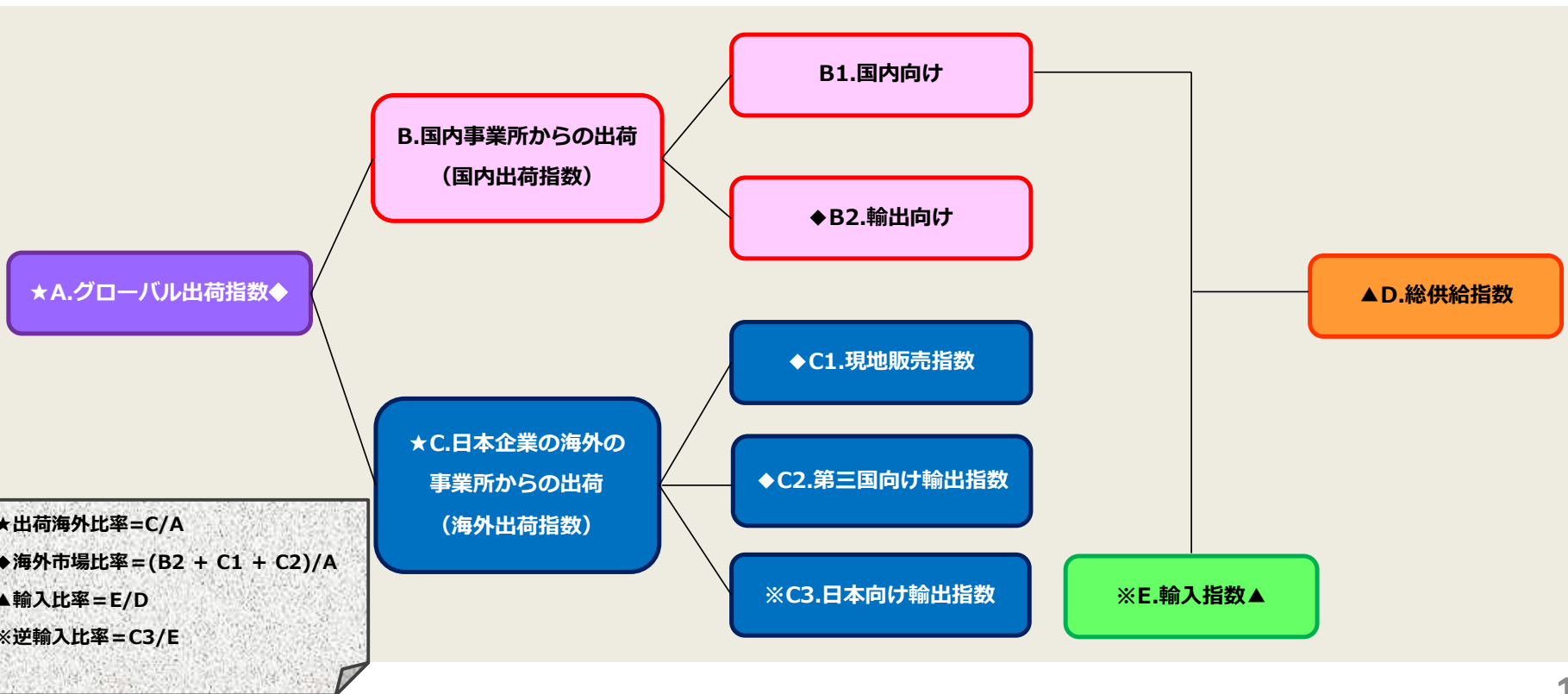
経済解析室
平成28年10月



ミニ経済分析URL: <http://www.meti.go.jp/statistics/toppage/report/minikeizai-result-1.html>

グローバル出荷指数とは？

- 製造業のグローバル展開を踏まえ、国内外の製造業の生産動向を「業種別」に一元的に捉えようとした指標。
- 製造業の動向を事業所ベースで捉えることとし、「鉱工業出荷内訳表・総供給表」と「海外現地法人四半期調査」の組合せにより、**海外生産（出荷）比率等**を算出している。



製造業グローバル出荷指数（季節調整済）の推移（総括表）

	27年度	27年		28年	
		1～3月期	4～6月期	前期比	
グローバル出荷指数	104.3	103.3	103.3	0.0	
国内出荷指数	96.3	95.3	95.1	▲ 0.2	
国内向け	95.8	94.6	94.5	▲ 0.1	
輸出向け	98.7	97.9	96.7	▲ 1.2	
海外出荷指数	129.6	128.6	129.1	0.4	
自国向け	130.8	132.4	133.0	0.5	
日本向け	121.0	110.5	110.4	▲ 0.1	
第三国向け	130.2	127.0	127.0	0.0	
海外出荷指数	129.6	128.6	129.1	0.4	
中国(含香港)	129.4	126.4	127.3	0.7	
ASEAN4	114.1	115.0	117.1	1.8	
北米	159.0	161.3	154.1	▲ 4.5	
それ以外の地域	159.0	111.2	116.9	5.1	

注1) 各四半期の結果については季節調整済指数、27年度の結果については原指数。

注2) 国内出荷指数は、「鉱業」を含まない「製造工業」の出荷指数。

製造業グローバル出荷指数（原指数）の推移（総括表）

	27年度	27年	28年	
		4～6月期	4～6月期	前年同期比
グローバル出荷指数	104.3	102.2	100.8	▲ 1.4
国内出荷指数	96.3	93.4	91.5	▲ 2.0
国内向け	95.8	92.2	90.4	▲ 2.0
輸出向け	98.7	98.5	95.9	▲ 2.6
海外出荷指数	129.6	129.7	130.2	0.4
自国向け	130.8	130.5	131.2	0.5
日本向け	121.0	121.1	115.4	▲ 4.7
第三国向け	130.2	131.4	134.1	2.1
海外出荷指数	129.6	129.7	130.2	0.4
中国(含香港)	129.4	128.4	125.4	▲ 2.3
ASEAN4	114.1	112.1	117.8	5.1
北米	159.0	160.5	159.6	▲ 0.6
それ以外の地域	116.0	117.4	117.5	0.1

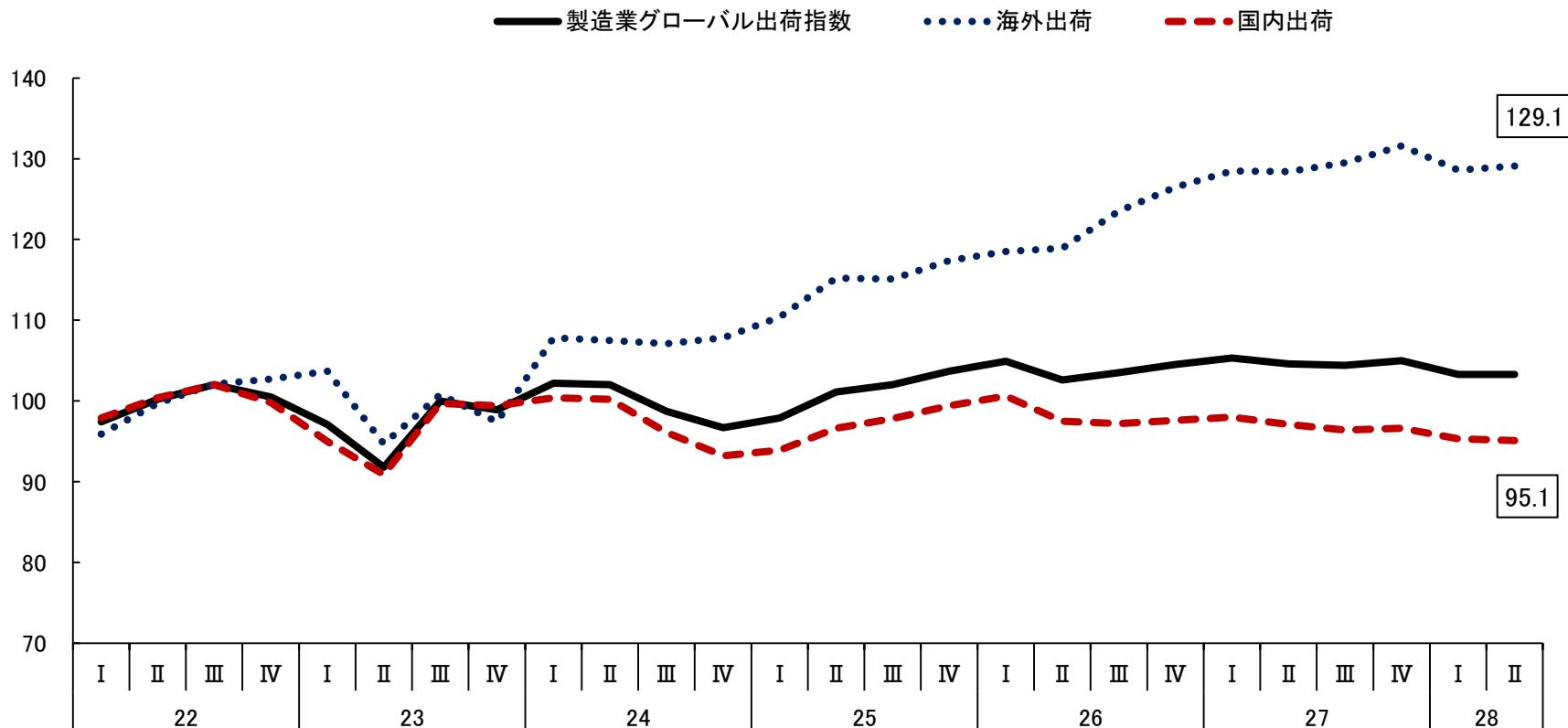
注) 国内出荷指数は、「鉱業」を含まない「製造工業」の出荷指数。

製造業グローバル出荷指数（季節調整済）の推移

28年Ⅱ期の製造業グローバル出荷指数（季節調整済）は103.3で、前期比0.0%の横ばい。

海外出荷指数は129.1で、2期ぶりに前期比0.4%上昇。

国内出荷指数は95.1で、2期連続の前期比マイナス0.2%低下。

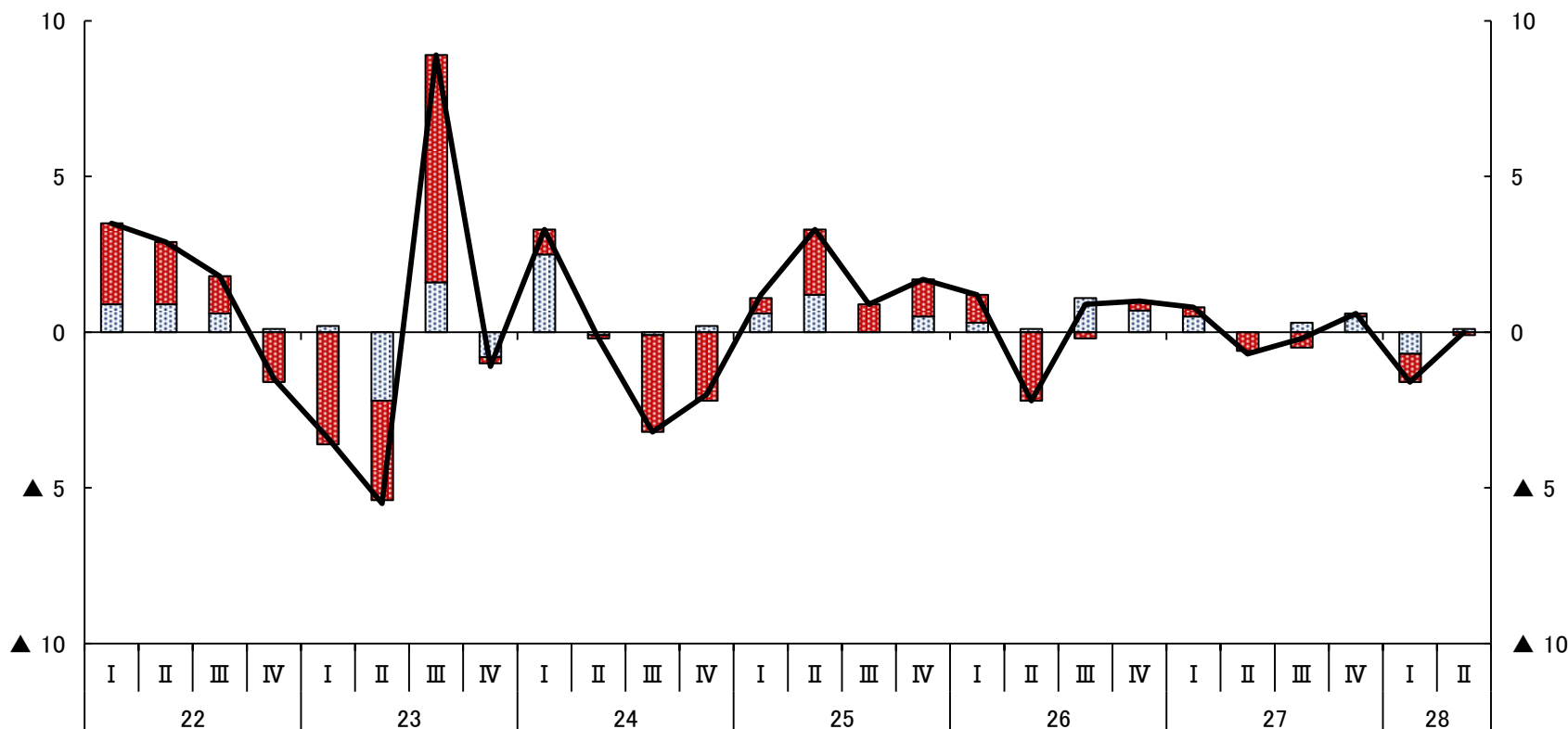


製造業グローバル出荷指数（季節調整済）の推移（前期比、内外寄与度）

28年Ⅱ期の製造業グローバル出荷指数は、前期比横ばい。
 海外出荷は2期ぶりに同0.1%上昇寄与。国内出荷は2期連続で同マイナス0.1%低下寄与。

■ 国内出荷 ■ 海外出荷 — 製造業グローバル出荷指数

(22年=100、季節調整済、前期比、%、%ポイント)

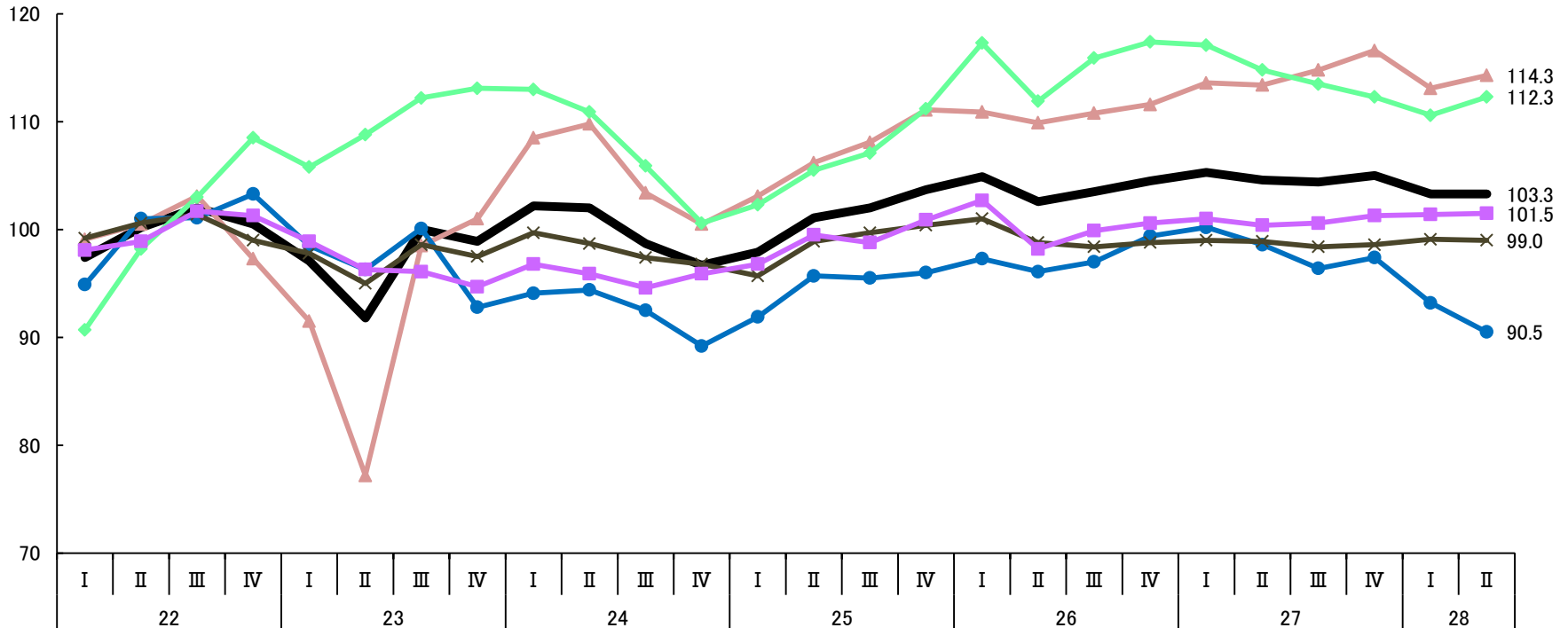


グローバル出荷指数（季節調整済）の推移（業種別）

主要業種のうち、前期比で上昇したのは、輸送機械工業（前期比1.1%上昇）、化学（同0.1%上昇）、はん用・生産用・業務用機械工業（同1.5%上昇）。電気機械工業（同マイナス2.9%低下）は低下。ただ、28年に入って、電気機械工業のグローバル出荷が、目立って低下している。

—●— 全業種
 —▲— 輸送機械
 —●— 電気機械
 —×— それ以外の業種計
 —◆— はん用・生産用・業務用機械
 —■— 化学

（22年=100、季節調整済）

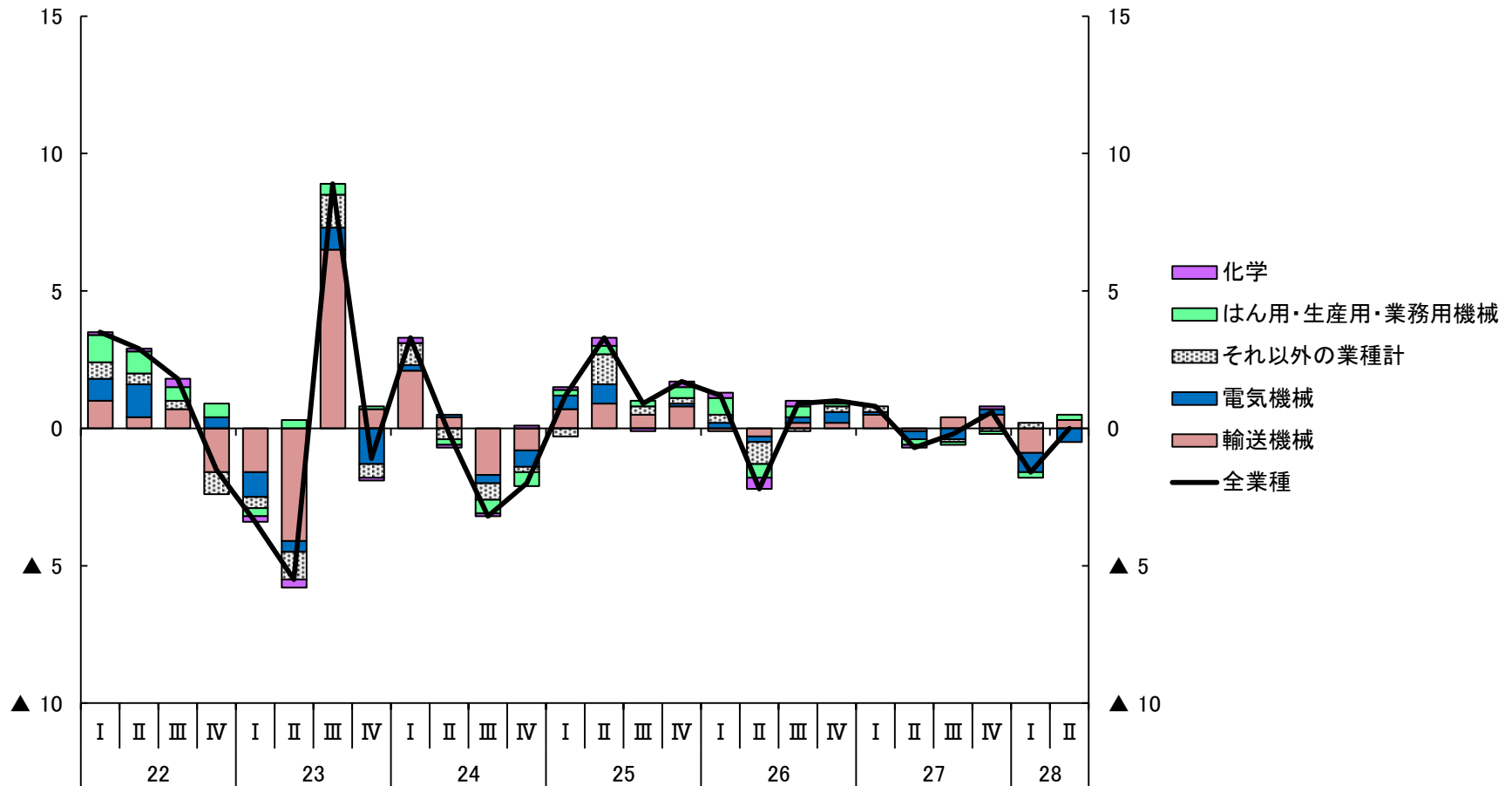


※業種の内容については、スライド3 2の「用語の説明」を参照のこと。

グローバル出荷指数の推移（前期比、業種別寄与度）

グローバル出荷全体の前期比横ばいに対し、輸送機械工業が、2期ぶりに前期比0.3%ポイントの上昇寄与。また、電気機械工業は2期連続で前期比低下寄与。

（22年=100、季節調整済、前期比、%、%ポイント）



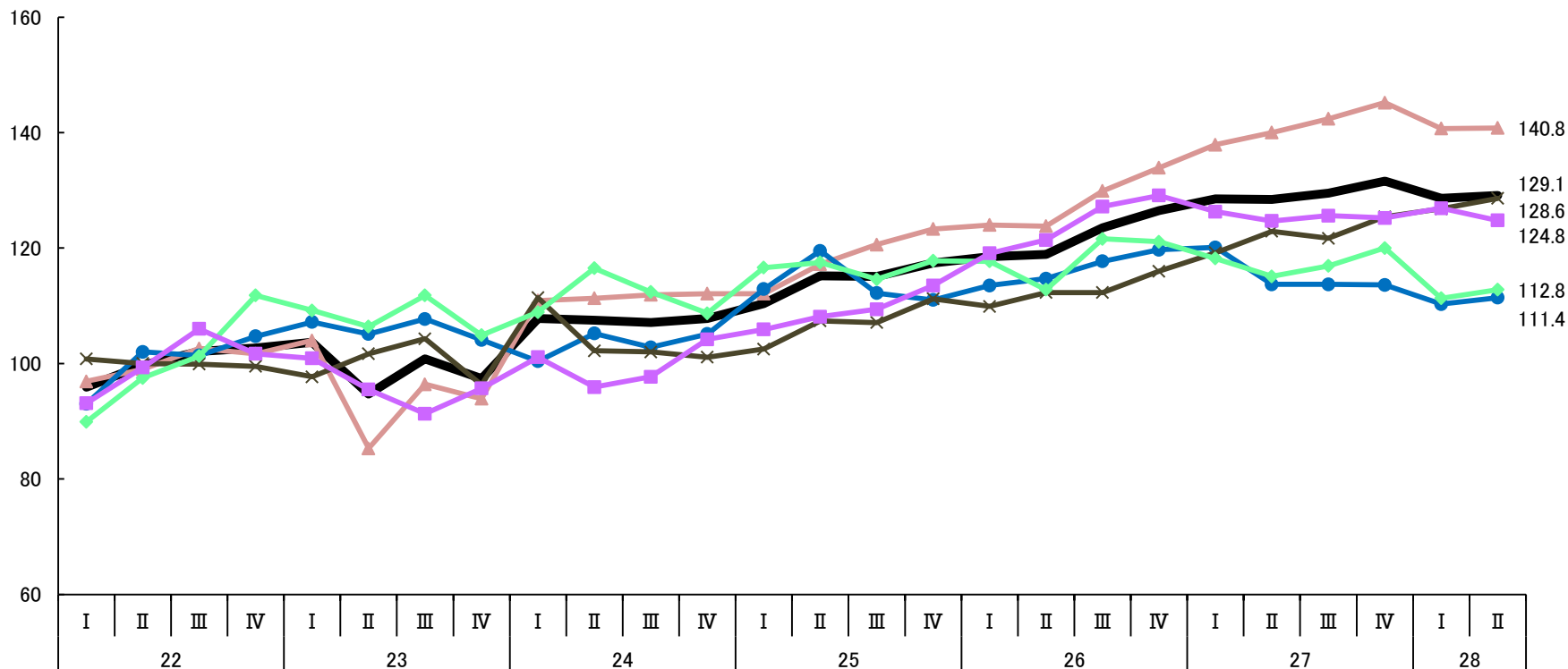
業種別・仕向け先別・地域別 海外出荷指数

業種別海外出荷指数（季節調整済）の推移

主要業種のうち、前期比で上昇したのは、輸送機械工業（前期比0.1%上昇）、電気機械工業（同1.0%上昇）、はん用・生産用・業務用機械工業（同1.3%上昇）。化学工業は、前期比マイナス1.7%低下。

—●— 全業種
 —▲— 輸送機械
 —●— 電気機械
 —×— それ以外の業種計
 —◆— はん用・生産用・業務用機械
 —■— 化学

（22年=100、季節調整済）

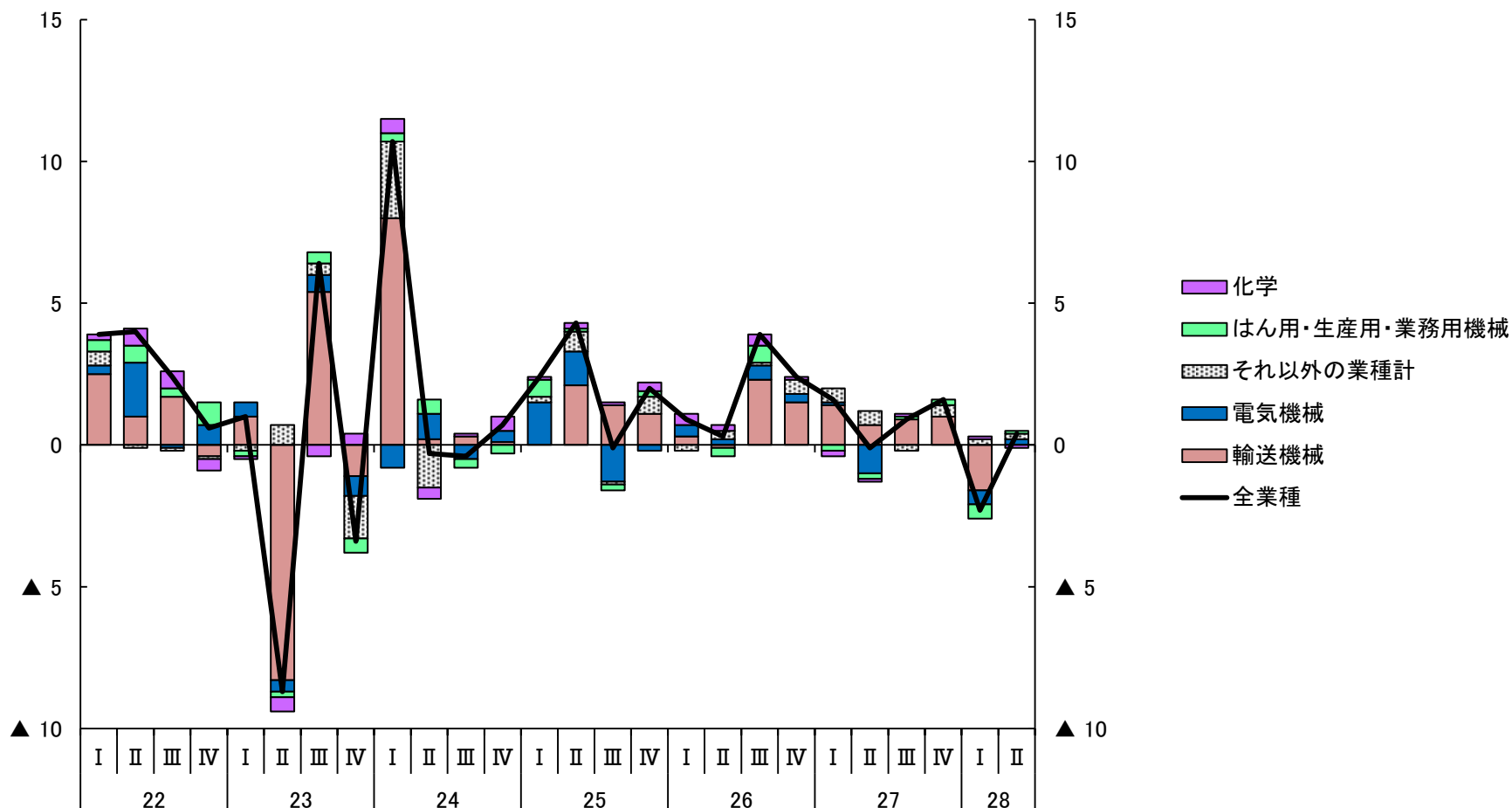


※業種の内容については、スライド3 2の「用語の説明」を参照のこと。

海外出荷指数の業種別前期比寄与度

海外出荷全体の前期比0.4%に対し、電気機械工業が0.2%ポイント、はん用・生産用・業務用機械工業が0.1%ポイントの上昇寄与。輸送機械工業の寄与は非常に小さかった。

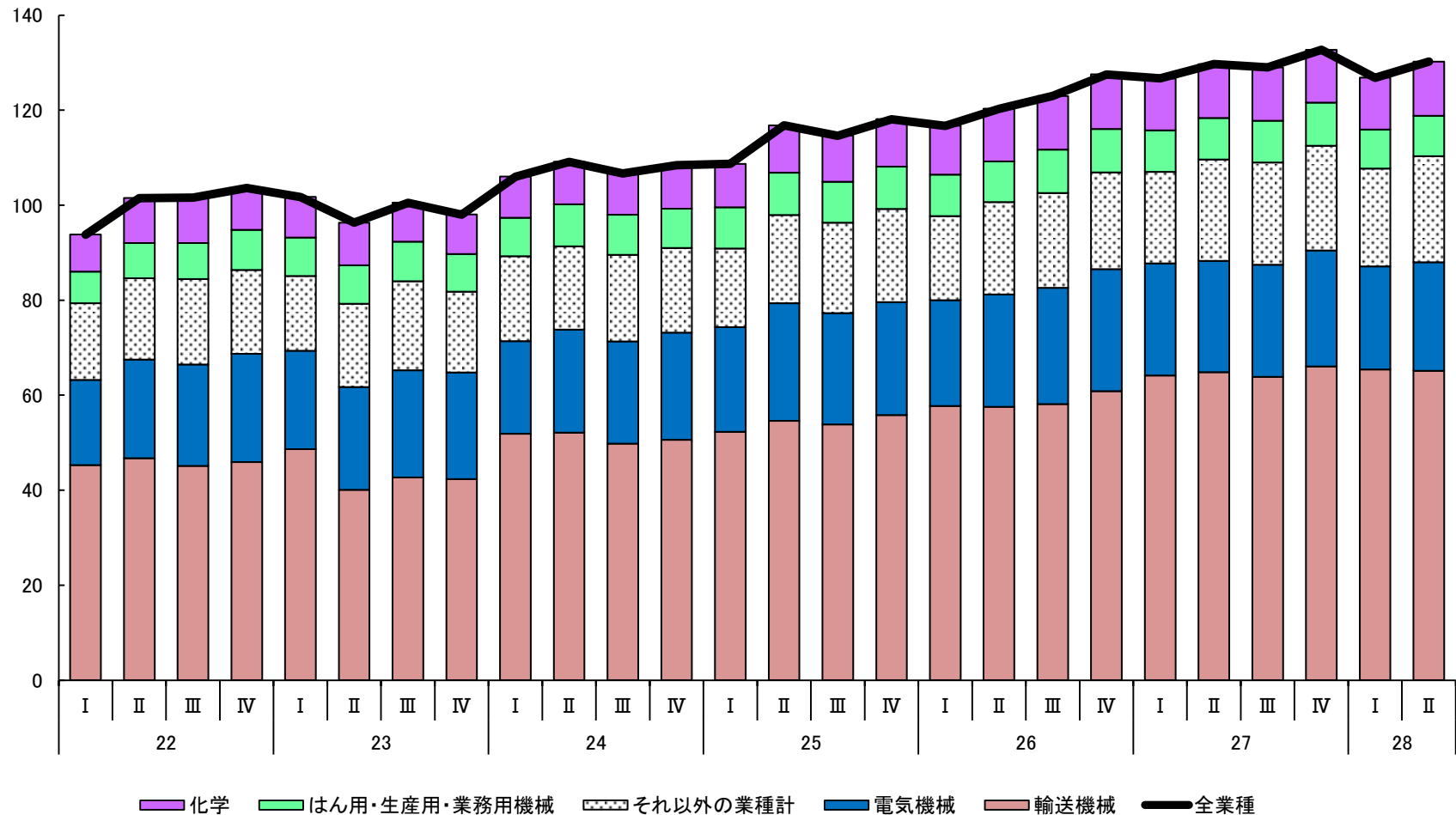
(22年=100、季節調整済、前期比、%、%ポイント)



海外出荷指数（原指数）の業種別構成比

28年Ⅱ期の海外出荷指数においては、輸送機械の割合は50.0%。これに次ぐのが、電気機械の17.5%で、構成比が若干拡大していた。

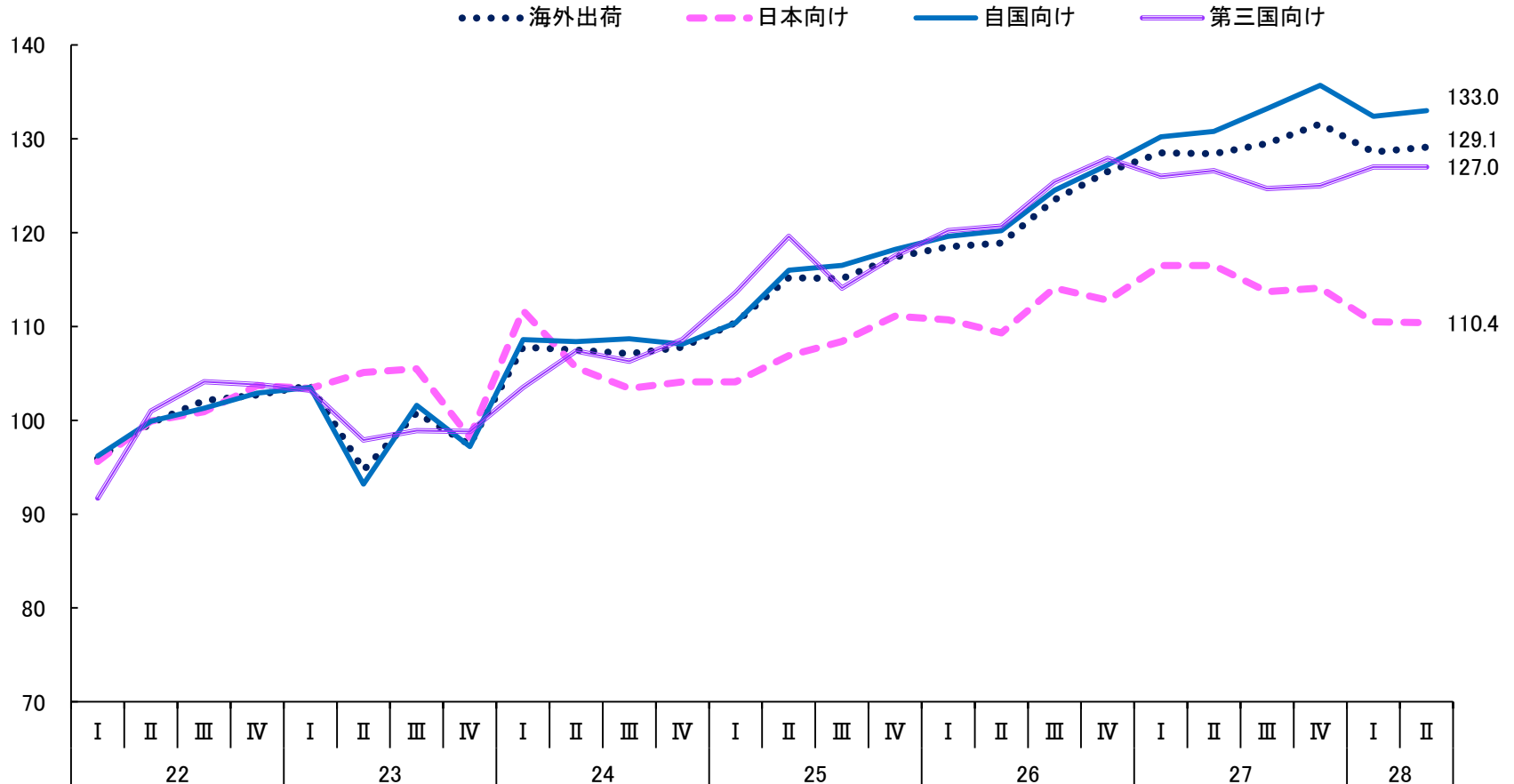
(22年=100)



仕向け先別海外出荷指数（季節調整済）の推移

海外現地法人の出荷を仕向け先別に見てみると、「自国向け」は前期比0.5%上昇、「日本向け」は同マイナス0.1%低下、「第三国向け」は横ばいだった。

(22年=100、季節調整済)

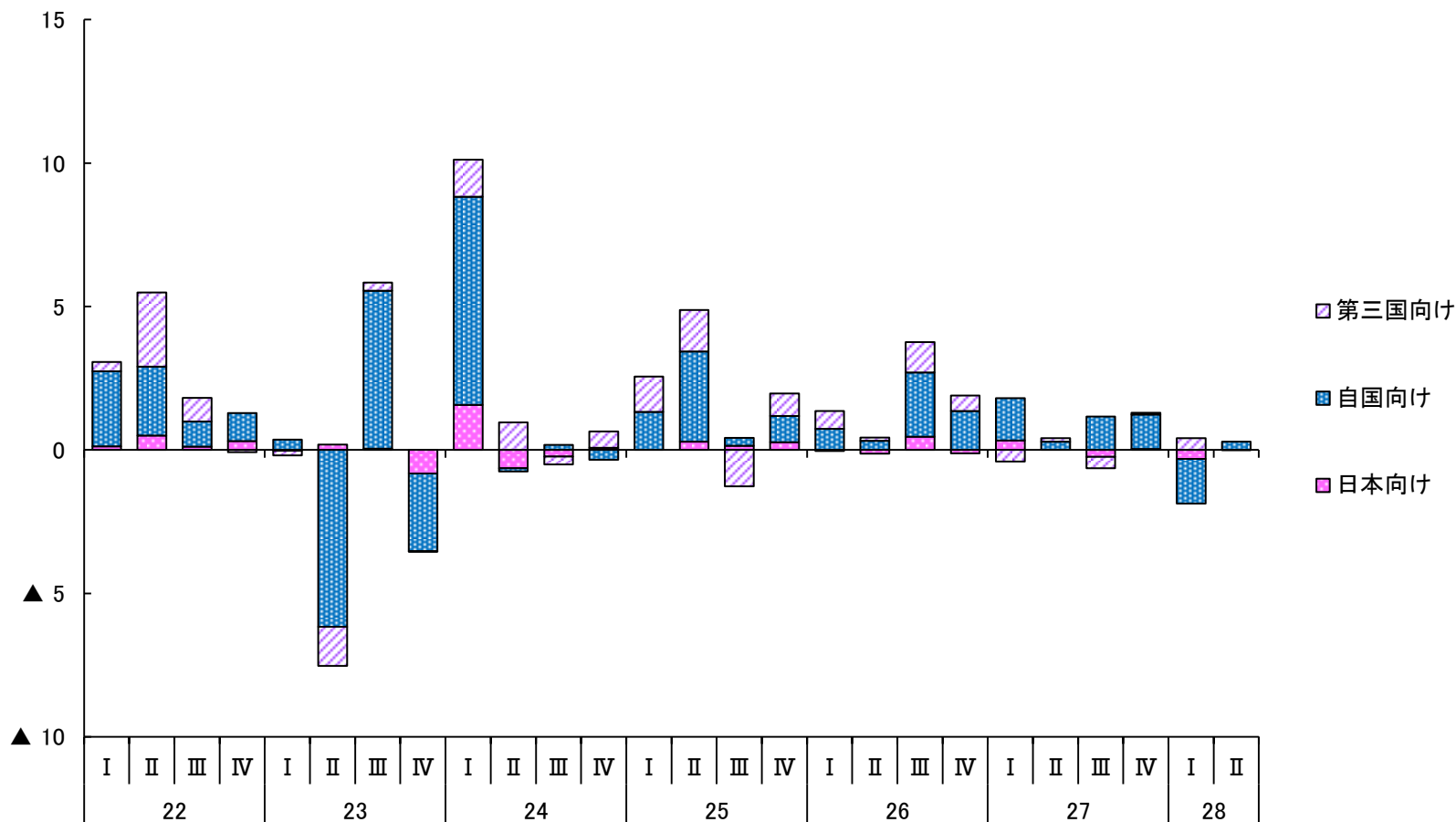


※業種の内容については、スライド3 2の「用語の説明」を参照のこと。

海外出荷指数の仕向け先別前期比寄与度

海外出荷全体の前期比0.4%に対し、「自国向け」が、2期ぶりの0.3%ポイントの上昇寄与。日本向け、第三国向けの寄与は著しく小さく、立地国向けの出荷が主な変動要因。

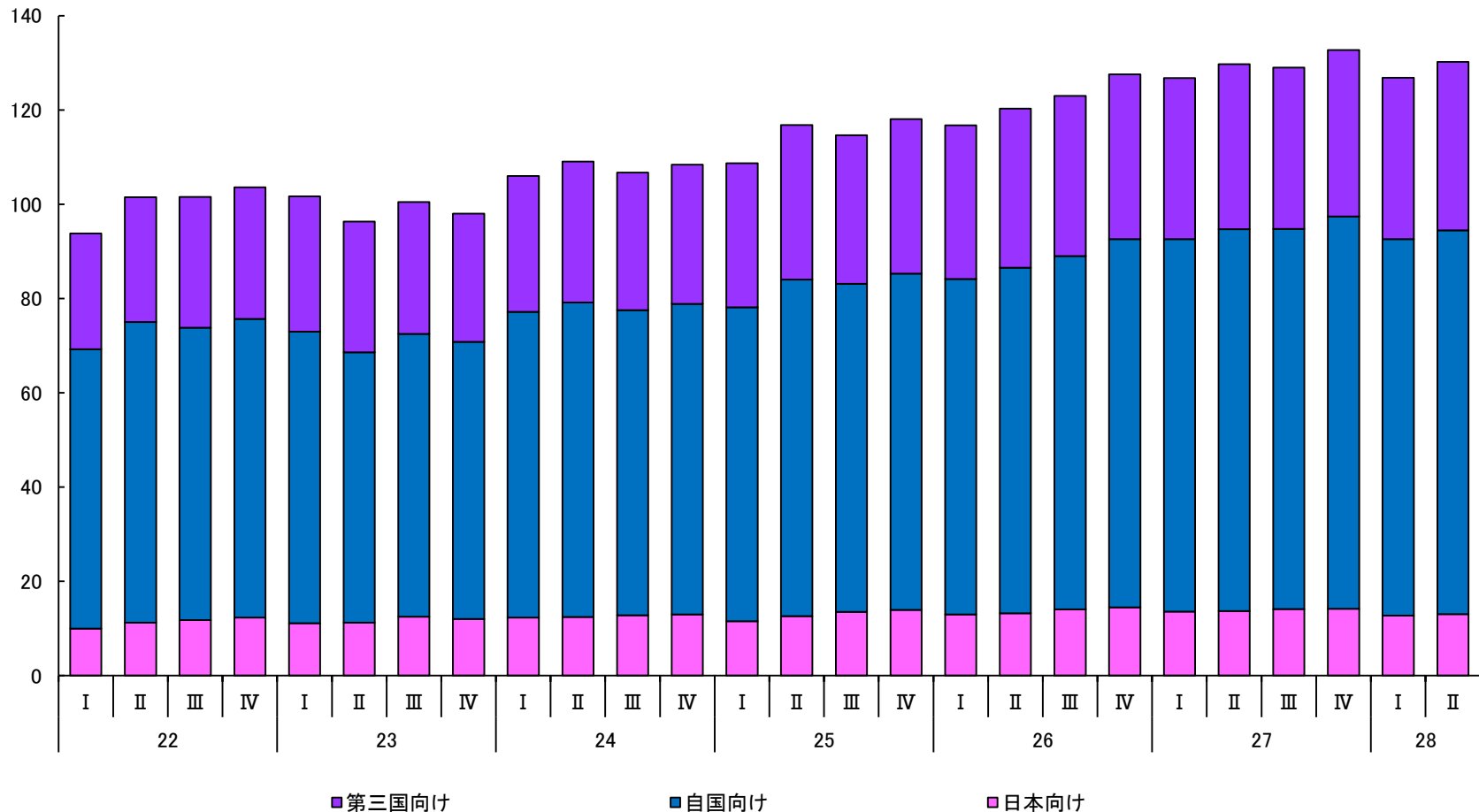
(22年=100、季節調整済、前期比、%、%ポイント)



海外出荷指数（原指数）の仕向け先別構成比

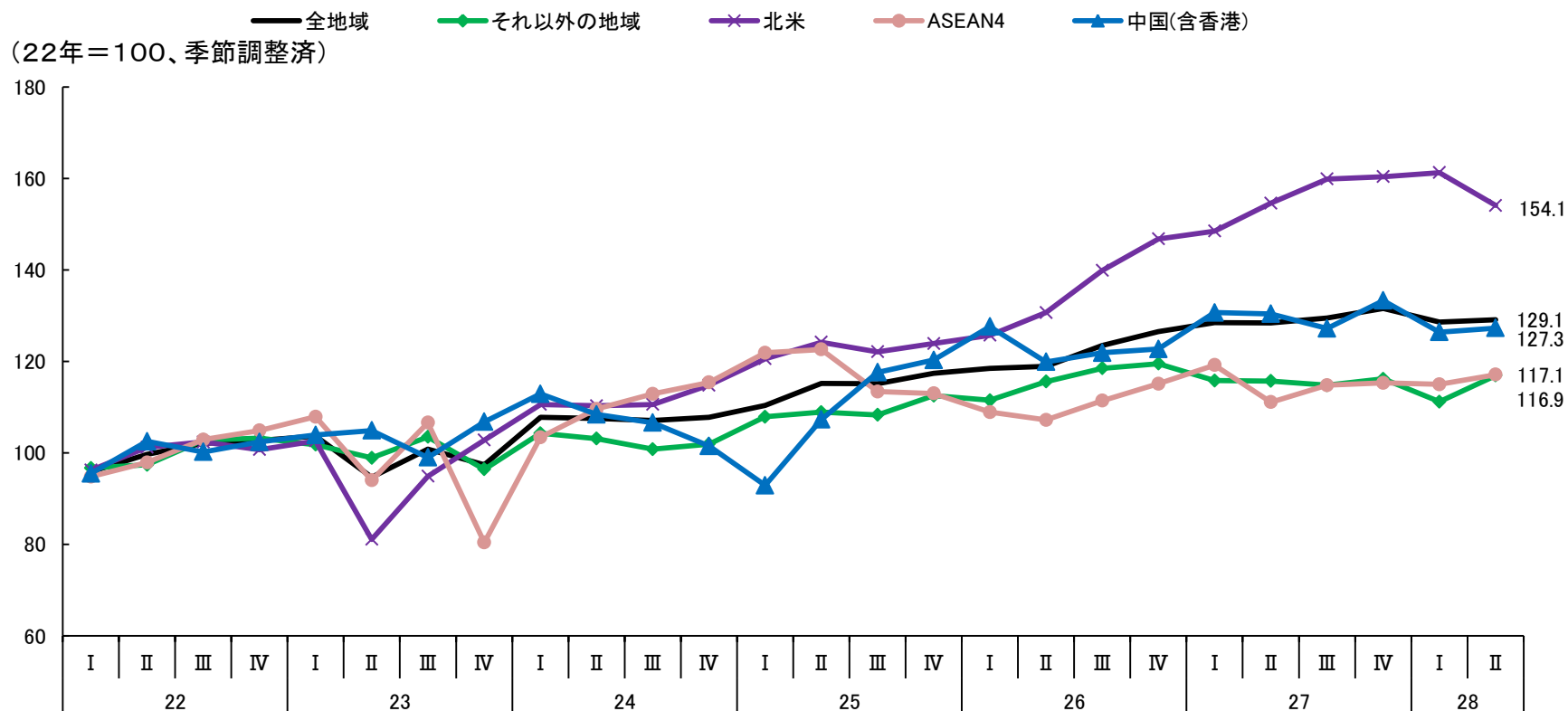
28年Ⅱ期の海外出荷指数においては、「自国向け」の割合は62.5%。
これに次ぐのが、「第三国向け」の27.4%で、「日本向け」は10.0%。

(22年=100)



地域別海外出荷指数（季節調整済）の推移

28年Ⅱ期の海外出荷指数の地域別では、中国（前期比0.7%上昇）、ASEAN4（同1.8%上昇）、それ以外の地域（同5.1%上昇）が上昇。一方、北米（同マイナス4.5%低下）の低下が目立つ。



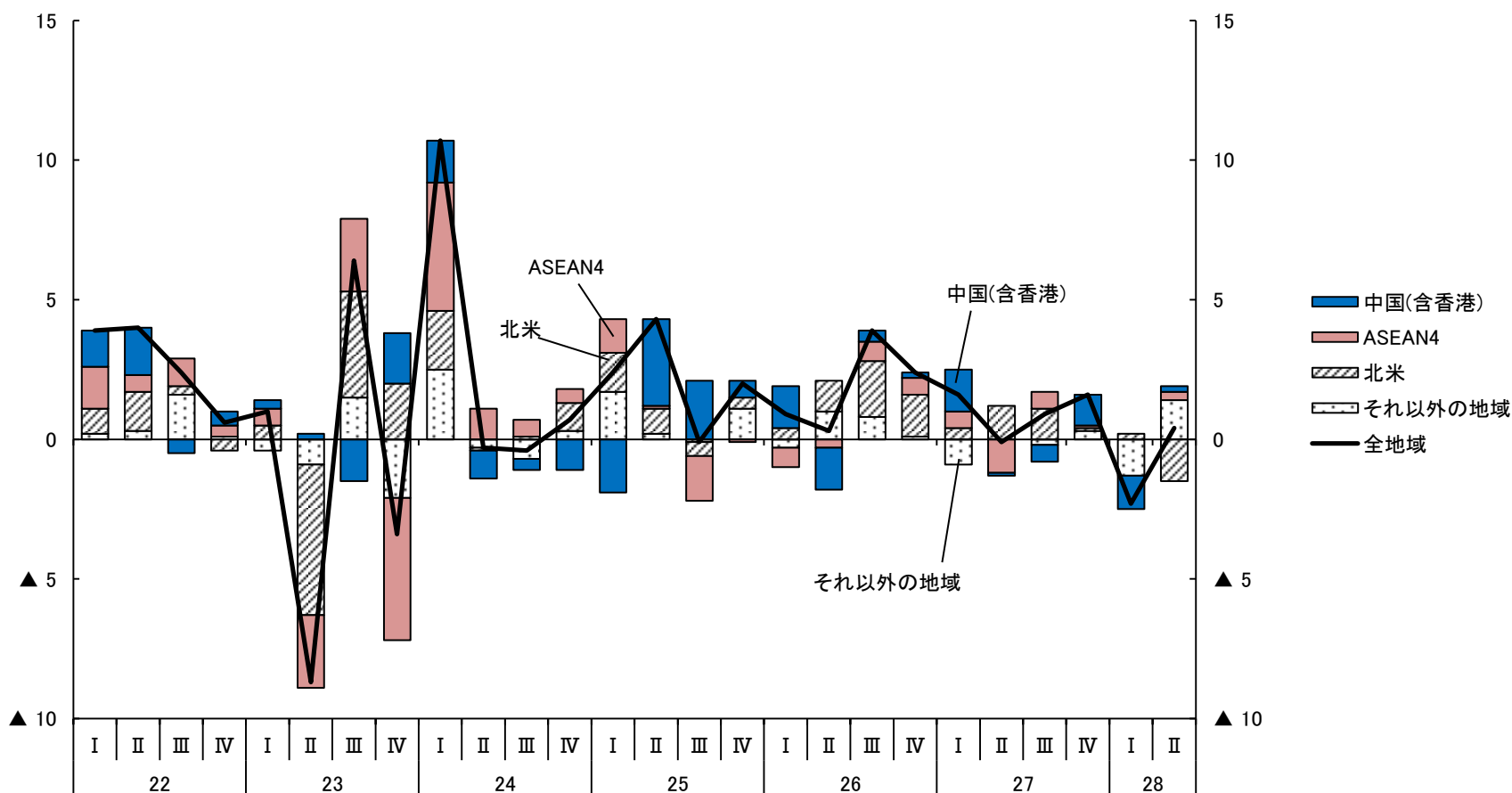
※海外現地法人四半期調査の売上高と輸入価格指数（財務省貿易統計）を用いて主要地域別のグローバル出荷指数（季節調整済）を算出。

※地域の内容については、スライド32の「用語の説明」を参照のこと。

海外出荷指数の地域別前期比寄与度

地域別海外出荷指数の前期比0.4%上昇に対し、中国が0.2%ポイント、ASEANが0.3%ポイントとともに上昇寄与。北米は11期ぶりの前期比マイナス寄与（マイナス1.5%ポイント）。

(22年=100、季節調整済、前期比、%、%ポイント)

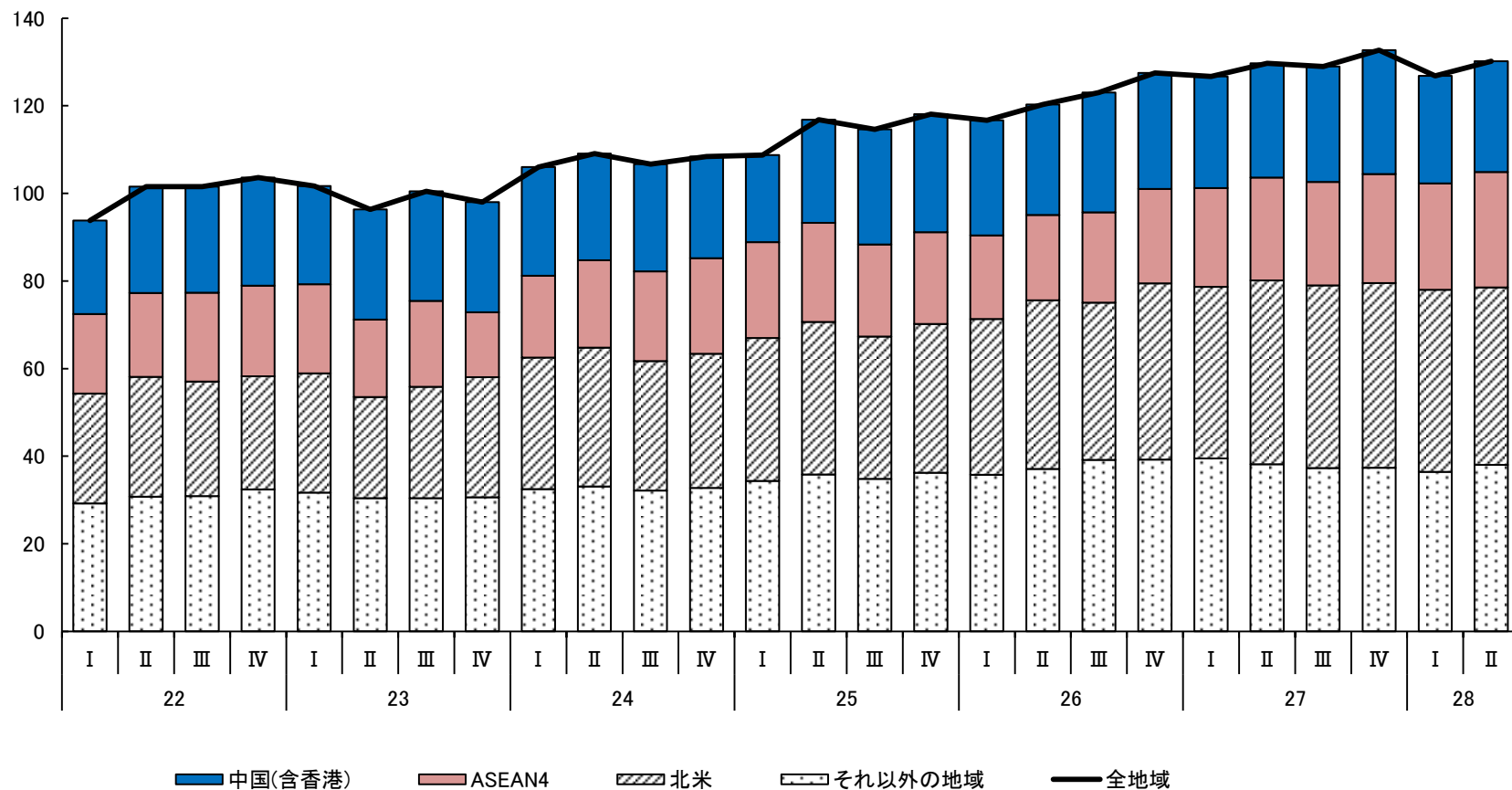


海外出荷指数（原指数）の地域別構成比

28年Ⅱ期の地域別の内訳をみると、北米の割合が31.1%で、これに次ぐのが中国(含香港)で19.5%。

引き続き、北米からの海外出荷のウェイトが大きい。また、中国の構成比は上昇。

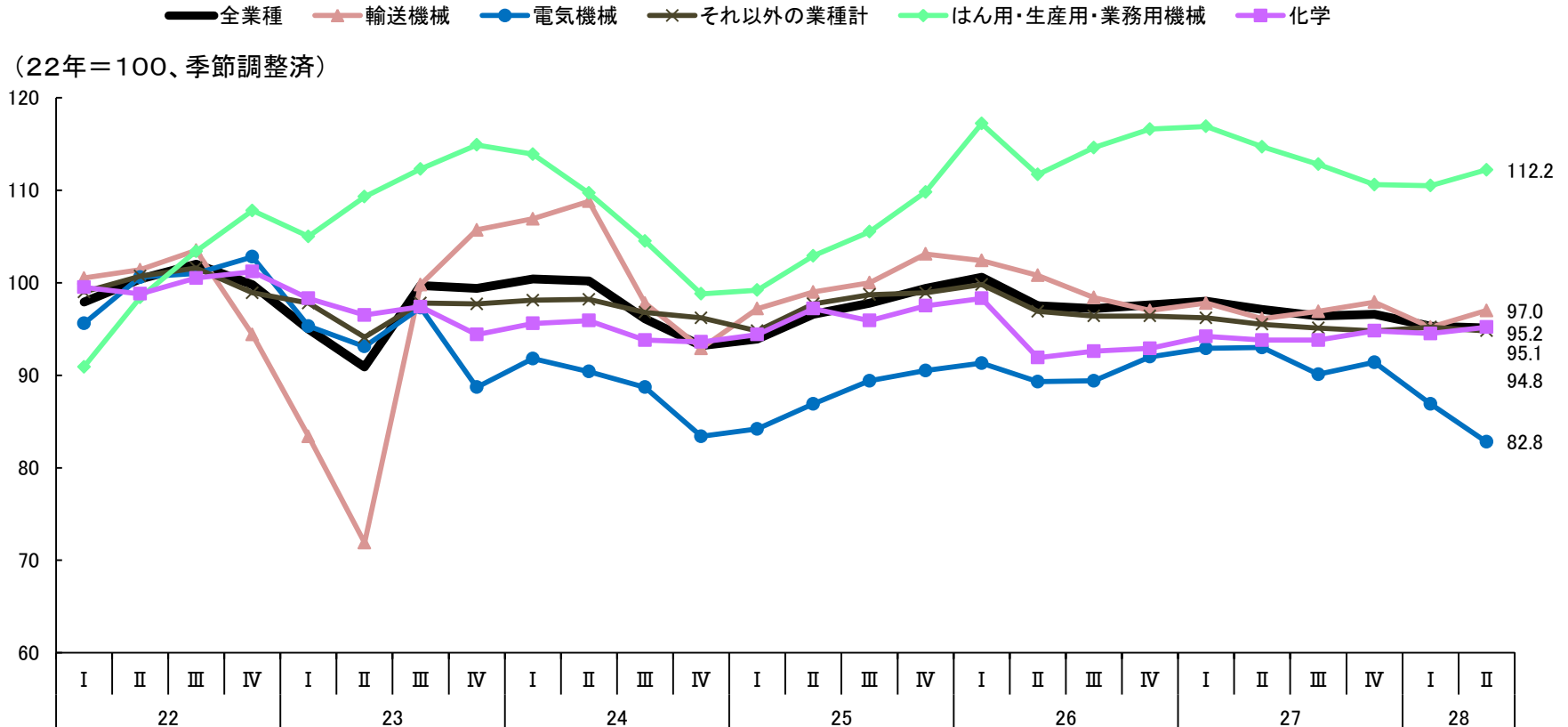
(22年=100)



国内出荷指数

国内出荷指数（季節調整済）の推移（業種別）

主要業種は輸送機械工業（前期比1.9%上昇）、はん用・生産用・業務用機械工業（同1.5%上昇）、化学（同0.7%上昇）が上昇。
一方、電気機械工業は同マイナス4.7%低下で、同業種のグローバル出荷の低下は国内出荷の低下によるもの。

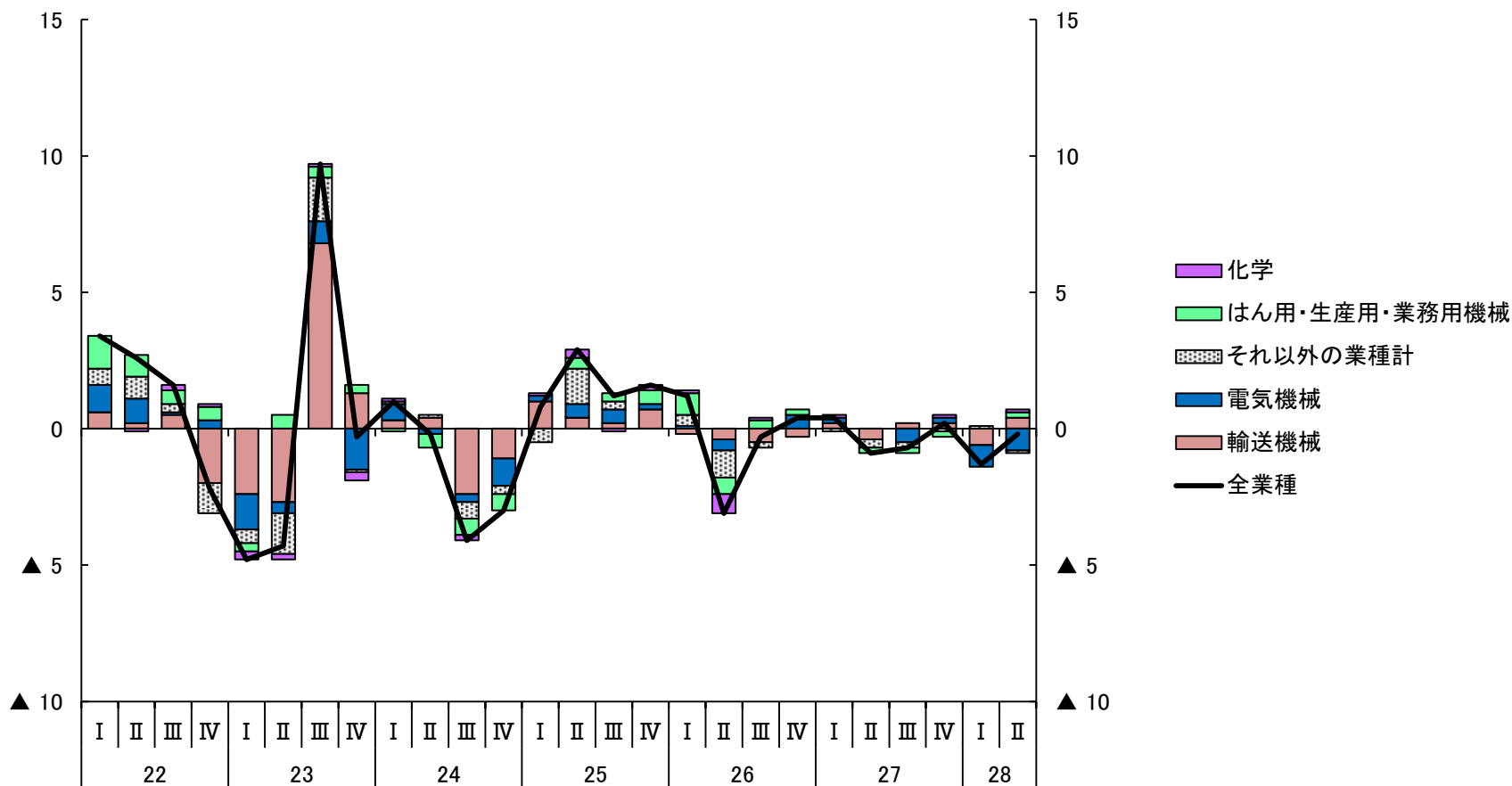


※業種の内容については、スライド3 2の「用語の説明」を参照のこと。

国内出荷指数の推移（前期比、業種別寄与度）

国内出荷全体の前期比マイナス0.2%に対し、輸送機械の前期比寄与が、2期ぶりに0.4%ポイントの上昇寄与。また、電気機械工業はマイナス0.8%ポイントと大きな低下寄与。

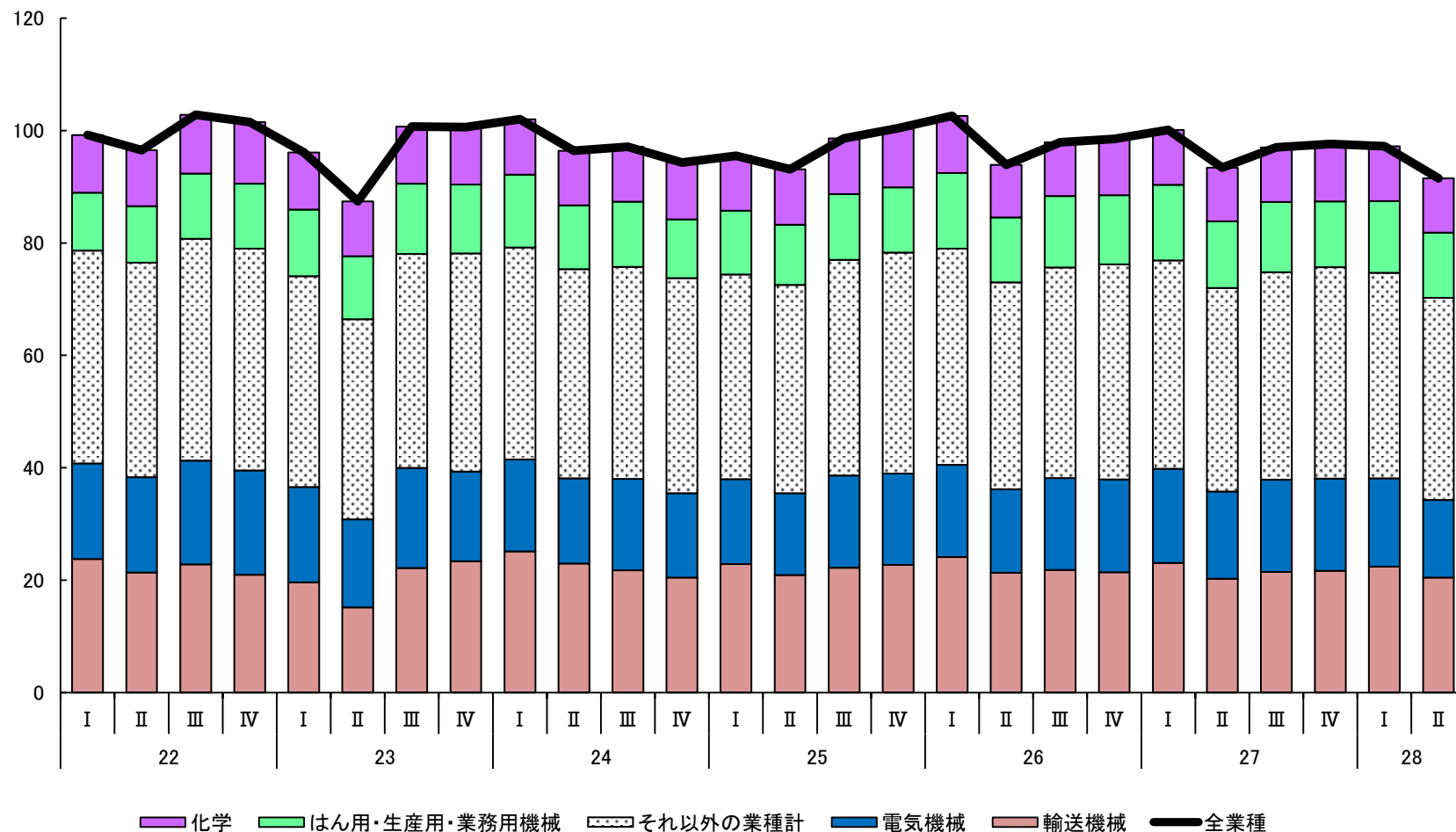
（22年=100、季節調整済、前期比、%、%ポイント）



国内出荷指数（原指数）の業種別構成比

28年Ⅱ期の国内出荷指数においては、輸送機械の割合は22.4%。これに次ぐのが、電気機械の15.1%だが、構成比が縮小していた。

(22年=100)



グローバル化比率

28年Ⅱ期のグローバル化比率

28年Ⅱ期の製造業出荷海外比率は31.0%。

28年Ⅱ期の海外市場比率は42.2%。

28年Ⅱ期の逆輸入比率は24.4%。

注) 製造業出荷海外比率：日本国内の鉱工業の活動と日系現地法人の活動の比率

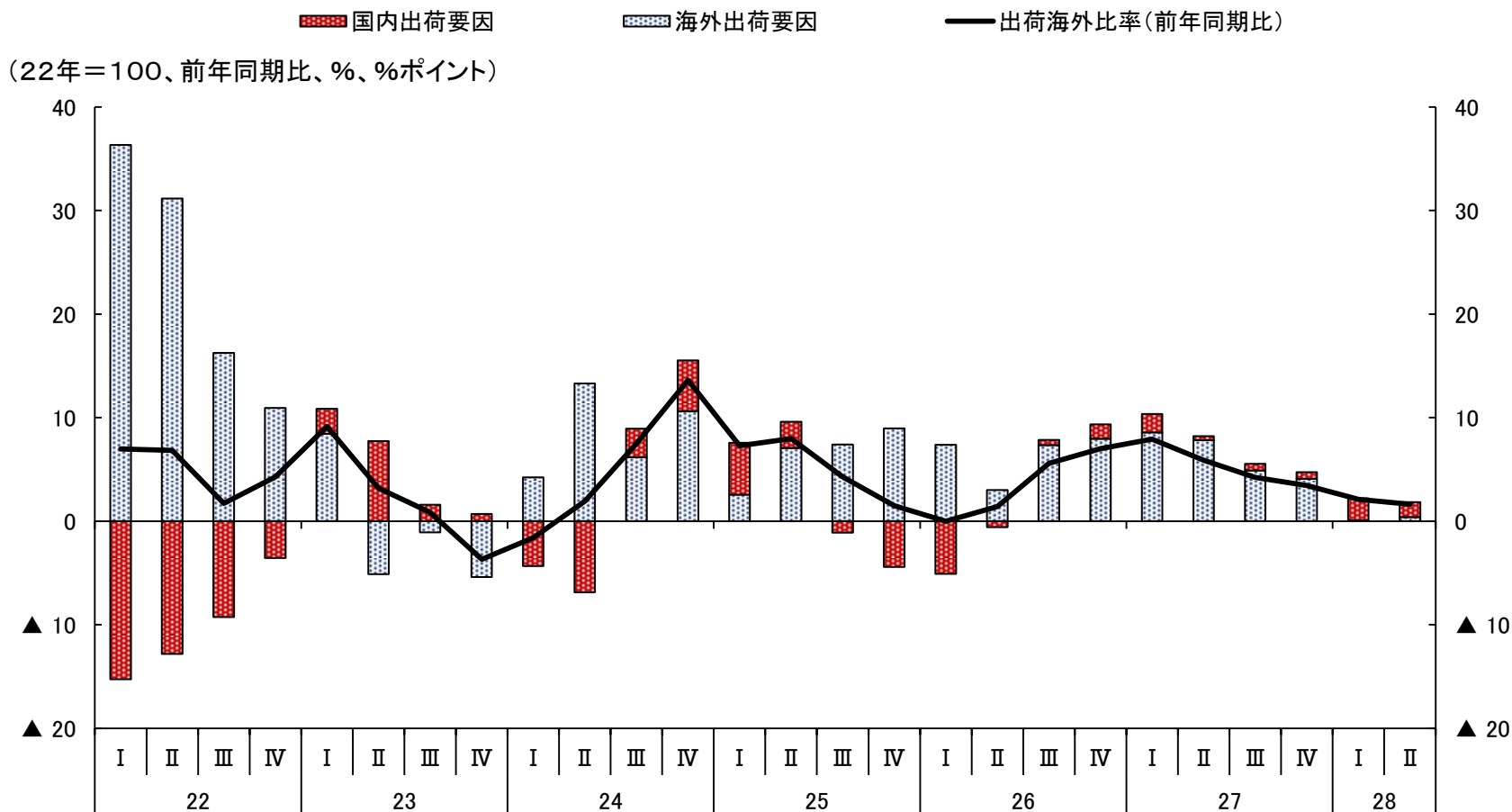
海外市場比率：グローバル出荷のうち、海外市場に出荷される割合

逆輸入比率：日本の輸入のうち、日系現地法人の日本向け輸出の割合

	製造業計	輸送機械	はん用・生産用・業務用機械	電気機械	化学	それ以外の業種計
出荷海外比率	31.0%	50.2%	18.9%	34.4%	27.1%	15.8%
海外市場比率	42.2%	60.7%	36.2%	43.5%	39.7%	26.6%
逆輸入比率	24.4%	59.2%	30.9%	48.3%	9.2%	12.9%

製造業出荷海外比率の前年同期比要因分解（季節調整前）

製造業出荷海外比率の前年同期比の上昇に対し、海外出荷の増加である「海外出荷要因」も若干のプラス寄与ではあるが、28年Ⅱ期の出荷海外比率の上昇は、国内出荷の減少である「国内出荷要因」によるもの。



グローバル化比率の季節調整値

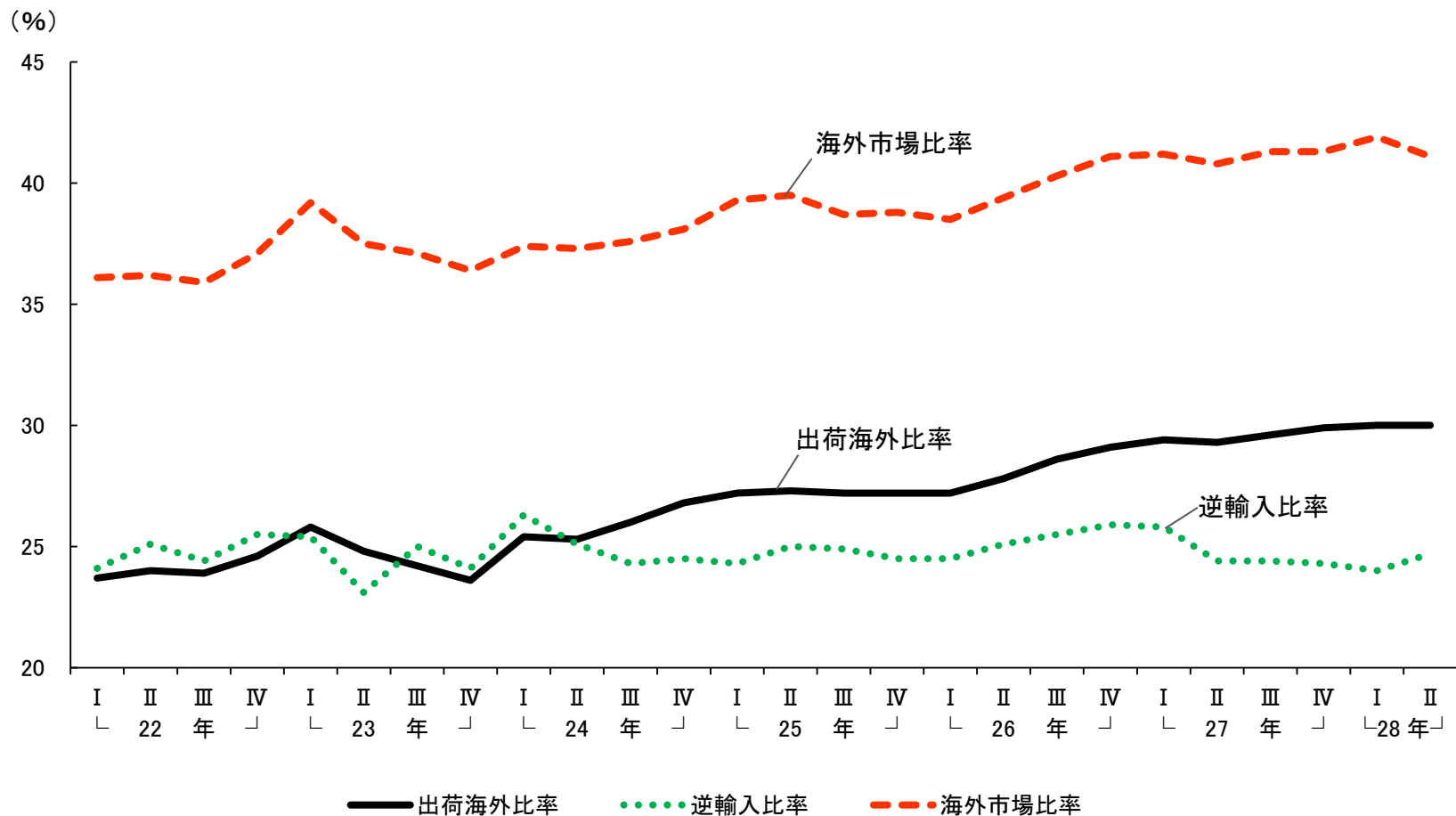
- 出荷海外比率等のグローバル化比率にも、季節変動が存在しているため、各期の数値の前期との単純比較は出来ない。
- そこで、グローバル化比率自体に季節調整を施す試みを実施。
- 季節調整の施された数値自体には、意味はなく、あくまで過去の各期のレベルとの比較に意味がある。
- よって、グローバル化比率の数値自体は、季節調整前の数値を参照。28年Ⅱ期分は、スライド23の数値。

グローバル化比率（季節調整済）の推移

28年Ⅱ期の製造業出荷海外比率は過去最高。

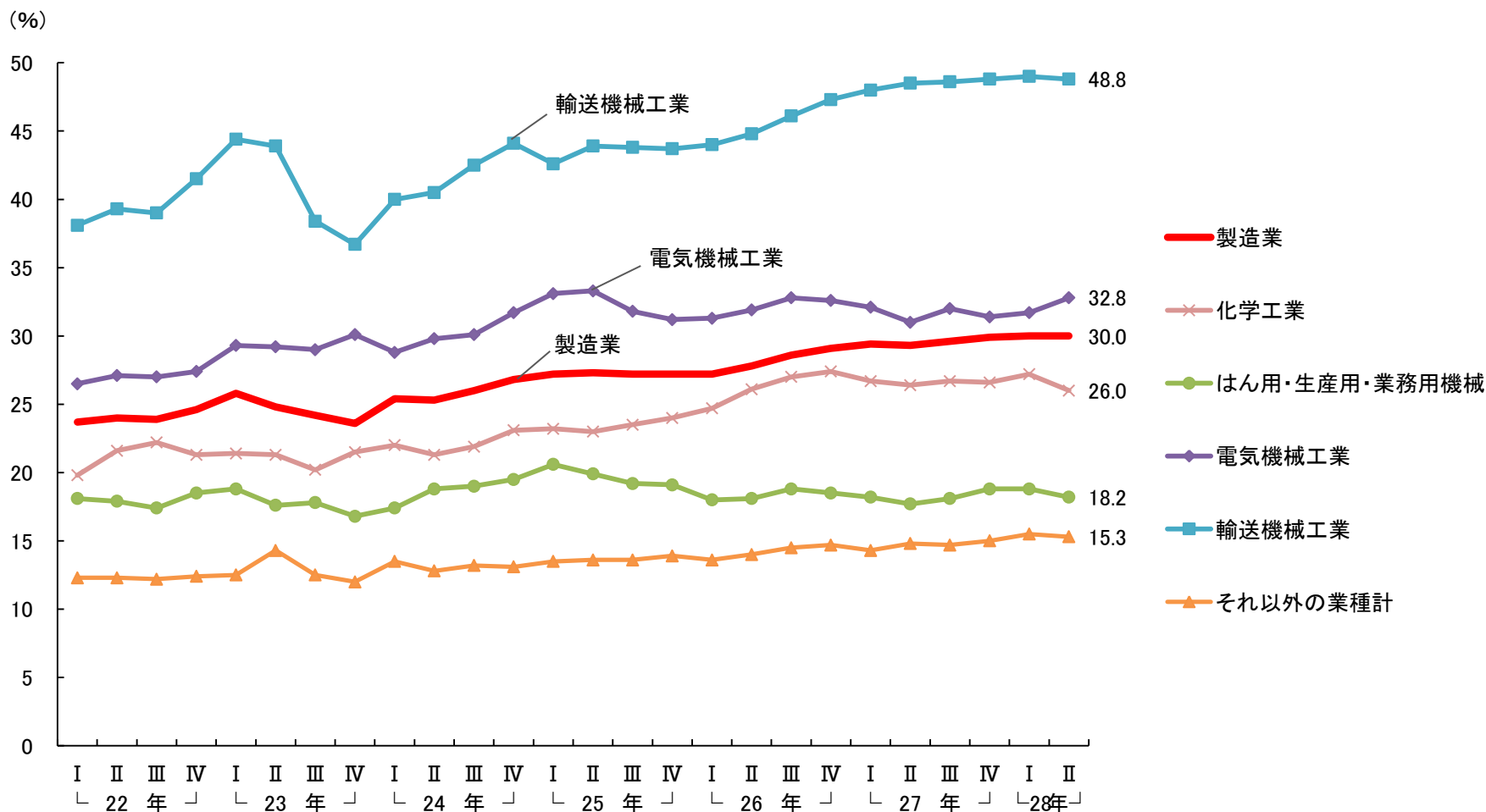
28年Ⅱ期の海外市場比率は過去最高だった前期より若干低下。

逆輸入比率は27年Ⅱ期以降、低下傾向だったが、28年Ⅱ期に上昇している。



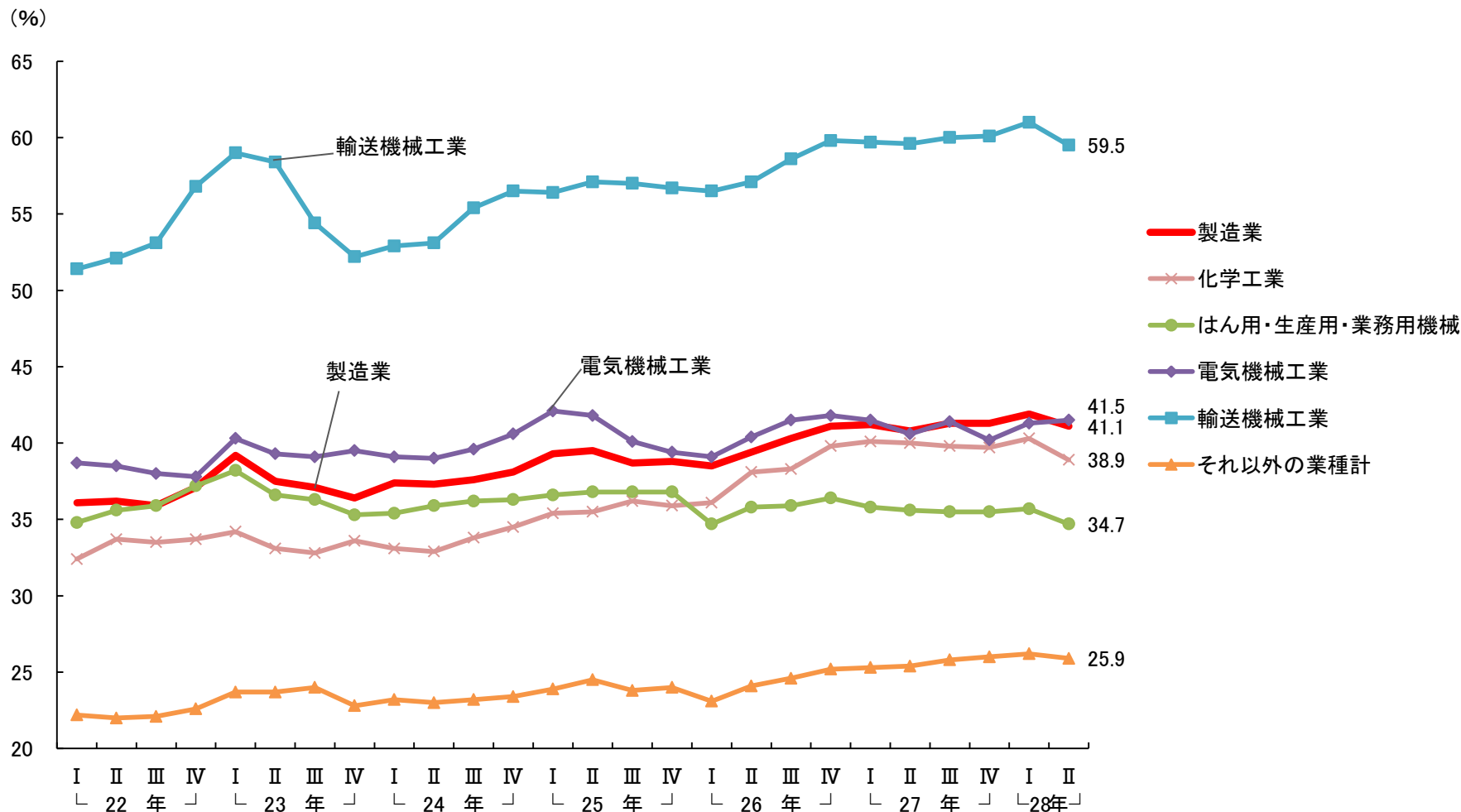
業種別製造業出荷海外比率（季節調整済）の推移

28年Ⅱ期の業種別の出荷海外比率では、全12業種のうち4業種が前期比上昇、7業種が低下、1業種が横ばい。主要4業種では電気機械工業だけが比率上昇。



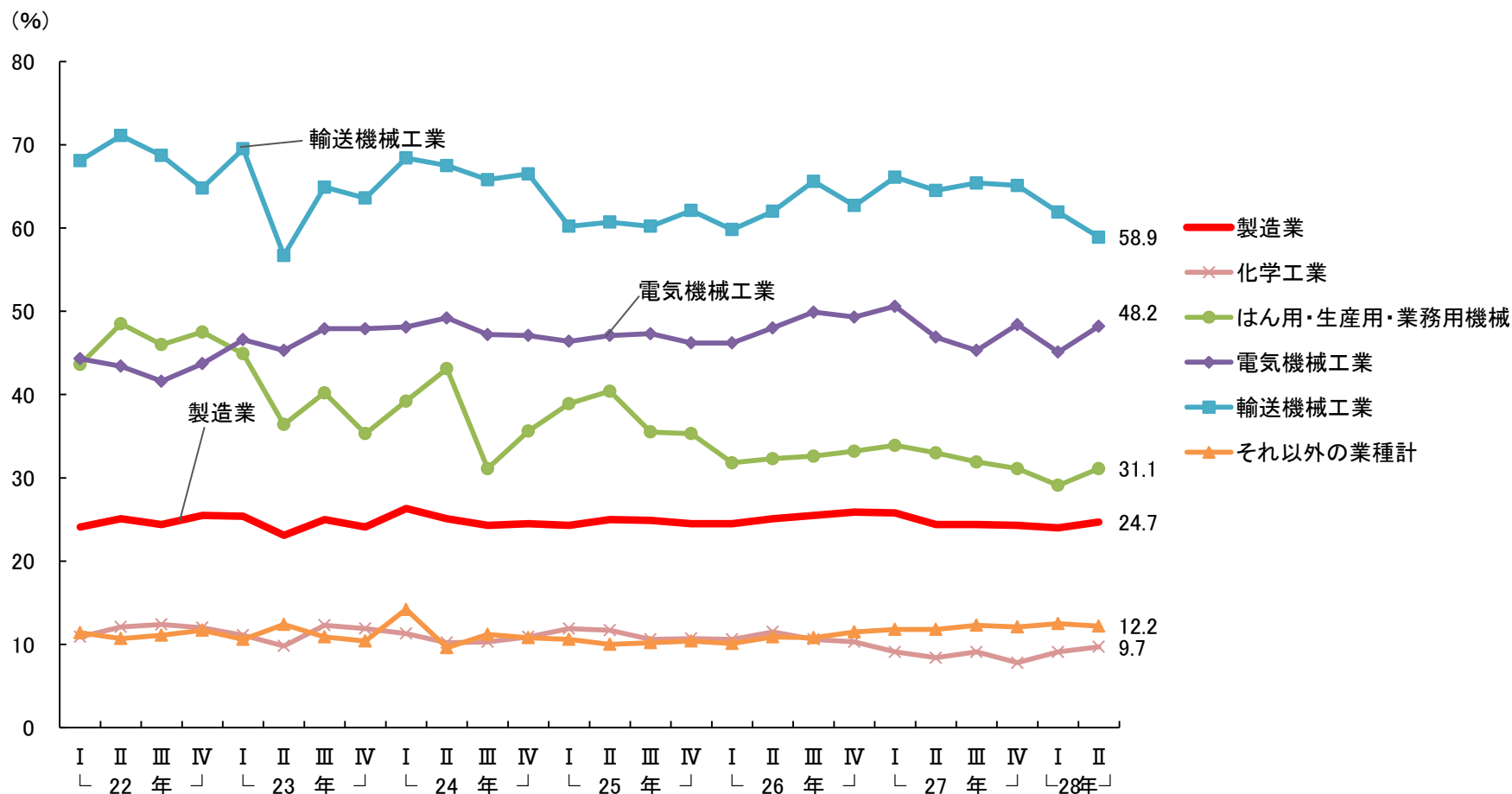
海外市場比率（季節調整済）の推移

28年Ⅱ期の業種別の海外市場比率では、全12業種のうち3業種が前期比上昇、9業種が低下。主要4業種では、電気機械工業のみ海外市場比率が上昇。



逆輸入比率（季節調整済）の推移

28年Ⅱ期の業種別の逆輸入比率（季節調整済）では、全12業種のうち6業種が前期比上昇、5業種が低下、1業種が横ばい。主要4業種では、輸送機械工業のみ比率が低下している。他の3業種については28年Ⅱ期の輸入全体が低下していることも影響。



28年Ⅱ期のグローバル出荷指数のまとめ

- 28年Ⅱ期のグローバル出荷指数は、前期比横ばい、前年同期比はマイナス1.4%低下。
- 海外現地法人の海外出荷は2期ぶりに上昇したものの、前期比0.4%上昇に留まる。国内出荷は、前期比マイナス0.2%低下。
- 海外出荷の上昇は、業種的には電気機械工業、はん用・生産用・業務用機械工業、地域的には中国、ASEAN4の上昇による。北米地域の海外出荷は、11期ぶりに大きく低下。
- 仕向け先別海外出荷では、現地法人立地の「自国向け」出荷の上昇が上昇。日本向けは、前期比低下。
- グローバル化比率においては、出荷海外比率は過去最高。海外市場比率は前期よりも若干の低下。
- 日本向け海外出荷は前期比低下だったが、28年Ⅱ期の輸入が減少しているため、逆輸入比率は上昇。ただし、輸送機械工業では、前期に続いて低下。

注意点

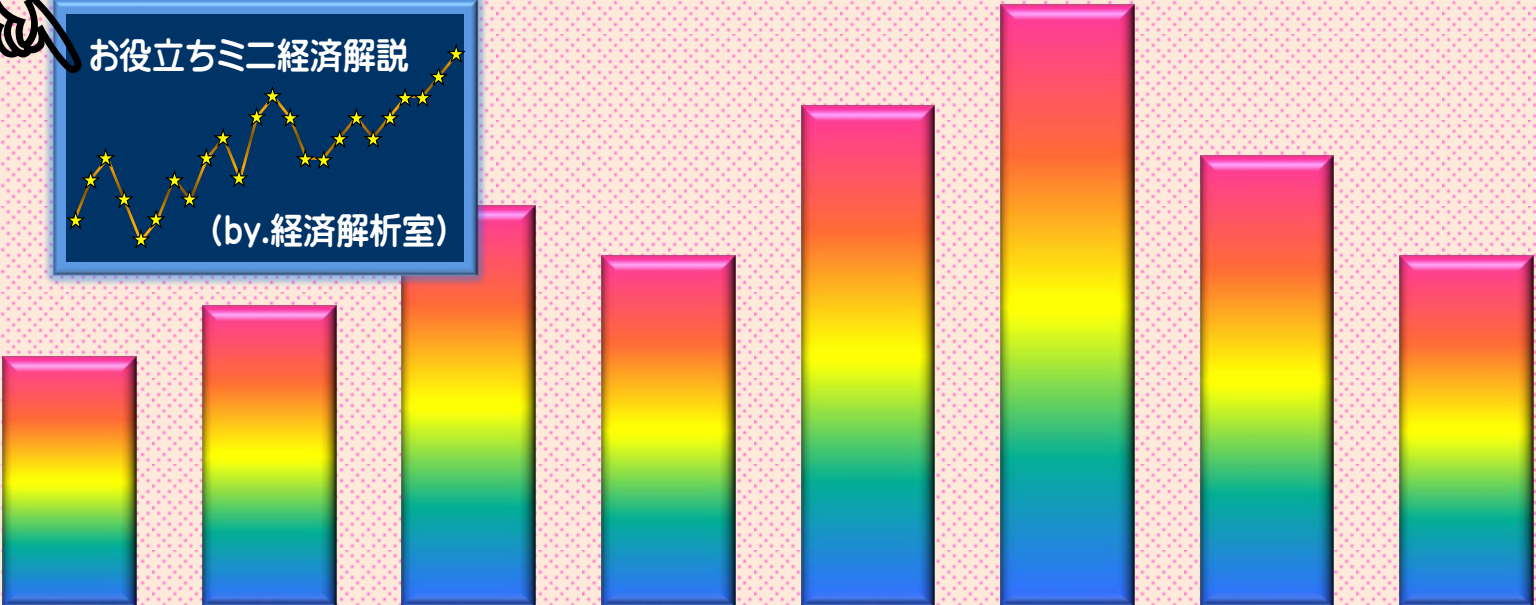
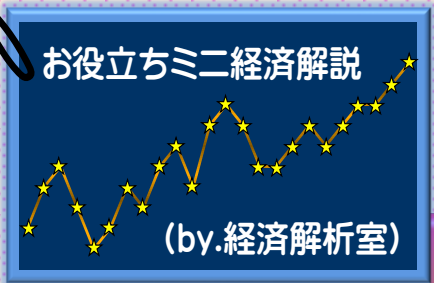
- 本資料の試算を行う際に、使用するデータ（海外現地法人四半期調査、鉱工業指数、日銀輸入物価指数）が速報値から確報値へ塗り替えられることなどに伴い、本資料の数字も前の四半期の数字から変わる。
- このため、「産業活動分析」や「ミニ経済分析」等の方法で過去に提供した、グローバル出荷指数の数値と、今回計算し直した数値には、違いが生じていることに留意。
- 年の表示は和暦であり、元号は特記しない限り原則として平成である。

用語の説明

- グローバル出荷指数における電気機械工業は、鉱工業指数における、電気機械、電子部品・デバイス工業、情報通信機械を合わせたものに相当する。
- 「それ以外の業種計」とは、次の8業種を組み合わせたものである。
「食料品・たばこ」、「繊維」、「木材・パルプ・紙・紙加工品」、「窯業・土石」、「鉄鋼」、「非鉄金属」、「金属」、「その他」
- 「それ以外の地域」とは、次の4地域を組み合わせたものである。
「NIEs3」、「その他アジア」、「欧州」、「その他」

こちら是非御覧下さい！

- ◎ ミニ経済分析：色々なテーマあります
- ◎ お役立ちミニ経済解説：総合ポータルサイトです



お役立ちミニ経済解説、経済分析、動きで見る経済指標、